

議員提出議案第四号

アメリカ合衆国大統領による「核兵器のない世界」に関する演説に賛同し、核兵器廃絶に向けた取り組みの強化を求める決議

右の議案を提出する。

平成二十一年六月十九日

提出者

杉並区議会議員

藤本	なおよ
渡辺	富士雄
岩田	いくま
はなし	俊郎
小野	清人
安斉	あきら
河野	庄次郎
原口	昭人
藤原	淳一
小川	宗次郎
横山	えみ
伊田	としゆき

杉並区議会議長

富

本

卓

様

アメリカ合衆国大統領による「核兵器のない世界」に関する演説に賛同し、核兵器廃絶に向けた取り組みの強化を求める決議

本年四月五日、世界で唯一の原爆被爆国の国民として、そして原水爆禁止運動発祥の地である杉並区の住民として、私たち杉並区議会議員は、プラハでのアメリカ合衆国大統領による「核兵器のない世界」に関する演説に接しました。大統領は、演説の中で、「核兵器を使用したことがある唯一の核保有国として、米国には行動する道義的責任がある」 「米国が核兵器のない世界の平和と安全を追求する決意であることを、信念を持って明言する」と述べました。

そして、「協力を求める声を非難し、あるいは無視することは、容易であると同時に、卑劣なことでもある。戦争はそのようにして始まる。人間の進歩はそこで止まってしまう」と述べ、「核兵器のない世界」に向けて「私たちは団結して、平和と進歩を求める声を上げなければならない」と、すべての人類に呼びかけました。

杉並区議会は、このたびのアメリカ合衆国大統領による公式演説を、歴史的な画期的演説と受け止め、心から感銘し、賛同を表明するものであります。

冷戦終結後二十年が過ぎようとしている現在、世界では、核兵器をはじめ、核をめぐる脅威はむしろ高まりつつあります。人類共通の願いである核兵器のない世界を一日も早く実現するためには、国際社会がこれまで以上に連携し、共通の強い決意を持って取り組まなければなりません。

よって、杉並区議会は、我が国の政府に対し、この機会をとらえ、核兵器廃絶の動きを世界的な潮流とすべく国際社会に働きかけるとともに、核廃絶・核軍縮・核不拡散に向けた努力を一層強化することを求めます。

また、アメリカ合衆国大統領におかれては、世界は変わることができると主張された今回の演説を、核兵器廃絶に向けての第一歩とし、国際社会の先頭に立って目標の達成に尽力されるよう要請いたします。

右、決議する。

平成二十一年六月十九日